

この講座は、以下のような順番でお話していきます

1. はじめに

- ①この講座は親子で素晴らしい人生を創ろうと考えられている方に最適な講座です。
- ②ピグマリオン脳を創りましょう。
- ③ピグマリオン学育メソッドについて

2. まず、しっかりとした心構え創りから始めましょう

- ①誕生前の胎児について / いいお産の話
- ②ピグマリオンの詩 / 宇宙の詩

3. はじめに

- ①運動能力の標準発達段階
- ②指先能力の標準発達段階
- ③基本知力の標準発達段階
- ④言語能力の標準発達段階
- ⑤数能力の標準発達段階

4.3 カ月毎のカリキュラム (6 段階の講座)

- ①第Ⅰ講座 (0～3 カ月児)
- ②第Ⅱ講座 (4～6 カ月児)
- ③第Ⅲ講座 (7～9 カ月児)
- ④第Ⅳ講座 (10～12 カ月児)
- ⑤第Ⅴ講座 (13～15 カ月児)
- ⑥第Ⅵ講座 (16～18 カ月児)

はじめに

この講座は、

- ①もうすぐに、お母さん・お父さんになる親御さんが、子どもが誕生する前に、《子育ての心構え》と《乳児の能力の発達段階(能力の育ち方)》と《能力の育て方》を学ぶための一助になればと思って作成しました。勿論、誕生後の子育ての考え方、方法、親子関係の作り方の参考にするためにも使用していただきたいと思います。
- ②新生児～24ヵ月児前後の赤ちゃんの子育てについて語っています。
内容は、幼児(小3まで)のうちに『ピグマリオン脳(小3で中学終了程度の能力)』が育つのを可能にするには、新生児～24ヵ月児前後の赤ちゃんと親御さんは、日常生活・親子関係をどのように創っていったらよいかの提言をおこなうものです。
- ③ピグマリオンを色々な年齢で始められる方がいらっしゃいますが、まだ、2歳児なのに、すでに、親子関係、知性、感性、人間性に大きな違いがあるということに、疑問を感じ、何とかしたいという気持ちを長年抱いて参りました。基本的には子育ての違いがそのような結果を招いているのです。
- ④そんなに難しいことではありません。例えば、心構えとは『ぎゅっと抱きしめて育てると、早く自立する。なぜなら、精神が安定するから。小3程度までは、望むならば、一緒に寝て、本を読むなどして、体の接触するチャンスを一日一度は心がけてください。ぎゅっと抱きしめられた記憶が、親と離れていても、親と一緒にいるという感覚を持たせるので、抱きついてきたら、ぎゅっと抱きしめること』と、いったようなことです。

ピグマリオン脳を創ろう

多くの人を幸せにする、知性、感性、人間性の高い脳を、ここで《ピグマリオン脳》と名づけます。自分を愛し尊敬する親から、自分を肯定することを学んだ子どもは、人間性の基礎となる親子関係を創り、知性を創り、感性を創り、人間性を創り、人生を創ることができます。そのような脳を、《ピグマリオン脳》と名づけることにします。

ピグマリオン脳を持って生まれてくる人間は一人もいません。

ピグマリオン脳は、そのような脳を育てたい親と、ピグマリオン学育メソッドが協力しあって良い環境を創ることによって創造されるものです。

ピグマリオン学育メソッドには、親が主体の親子関係創造力、子ども主体の指先・皮膚感覚、幾何学能力、思考判断力、数論理能力、物理・化学能力、言語能力、人間性を創る、誕生から12年間を対象とした哲学(フィロソフィー)・方法(メソッド・カリキュラム)、学具(教具)、学材(プリント教材)が揃っています。

(勿論、日々、研究、更新、改善を続けています。)

《ピグマリオン脳》を持ちつつある子ども(ピグマリオンの生徒、卒業生)の中には、

- ①幾何学が指導の重要な位置を占めているピグマリオンで折り紙を習って、折り紙好きになって、折り紙にむく紙の研究を論文にまとめ、今は、プログラミングで、音楽アプリを作り、起業に燃えている中1がいます。
- ②幾何学が指導の重要な位置を占めているピグマリオンでぬりえを習って、絵画に目覚めた子どもの中には、絵画コンクールで市長賞を獲得し、美術の研究に入り、黄金比、白銀比などを古代建築の中に発見するという研究レポートを書く子もいます。

- ③数論理能力が重要な位置をしめているので、当然数学に興味を持つ子どもも多く、小3～小5では、数学検定で高校レベルの合格者もいれば、ジュニア算数オリンピックで金賞を受賞した子ども達もいますし、小4で微分積分を親にプレゼントする子どもも現れています。
- ④また、16世紀までは、音楽は数学の一部だったので、音楽の成長は特別急速で、幾何学や数論理を含む数学を数学と考えているピグマリオンで学んだ生徒達は、音楽を学べば、抜群の成長を見せ、全国大会へ出場する子どももいます。
- ⑤知性・感性・人間性の高さは、数学・音楽・絵画・スポーツだけでなく、言語能力も高めるので、国語や英語を学ぶときに役に立ち、難関中学トップ校(灘・開成・筑駒)の3つに全て合格しながら、小6で英検準1級も合格するといった生徒もいます。
- ⑥自分の幸せを最大限にするには、できるだけ多くの他人の幸せを達成することだと考える生徒や卒業生は多数います。
- ⑦卒業生はこの3年連続灘中1位合格をしていますし、東大理Ⅲトップ卒業、マサチューセッツ工科大学卒業生などもいます。

以上のような子供たちは、自分が賢いとは思っていません。日々に、親子関係、知性、感性、人間性を創造するという生活の中で、豊かで楽しい人間を創造しているのです。

ごく最近、2ヵ月かけて、のべ300人前後の親御さんとお話する機会を持ちました。

家庭学習されている方、ピグマリオン教育を忠実に実行されている教室に通われている方々から、多数の感謝の言葉をいただいています。

それにより、《ピグマリオン脳》を持つ子ども達が増えていること、素敵な人生を創造できる子ども達が増えていることを実感しています。

ピグマリオンの学育メソッドについて

ピグマリオンの学育メソッドは、

《人生を幸せに生きるための能力づくり》のメソッドです。

それには、親子が日常生活の中での〈学びの共生関係〉をつくる必要があります。そして、共進化し共成長するのです。

ピグマリオンの学育メソッドは、親子がともに共進化し共成長のために必要な、心構え・考え方、学材(教材)、学具(教具)、学び方、指導手順(カリキュラム)を提供します。

①『感謝』が親子関係づくりの基本です。

人間は間違いを犯すものですので、『謝ること』で『誤り』を訂正することができます。『ありがとう』『ごめんなさい』の心を持ってください。

②《親子》が日常生活で学び、能力を創造するのが〈主〉で、教師や教室でのレッスンは、〈従〉です。

親子がともに学ぶ〈学びの共生関係づくり〉を優先して、親は絶対に教師にならないようにしてください。教え込む教師や覚え込ませる教師になると、親子が上下関係となり、親子関係が崩れます。親子関係は、物の位置関係である上下関係ではなく、共生関係である人間関係だからです。

親子関係は、子供が生まれてきてから創られるものであり、創造するものです。

③《知性》を創ることが目的です。

1. 人類が知性を創ってきた歴史から学び、知識の強制をしないようにしてください。直角三角形の認識の歴史を考えてみましょう。
2. 数学的知性を自らの力で創造するような環境を与えてください。
3. 小3で小学校算数終了。小4で中学数学・理科を終了。小6で高校数学・理科を終了します。

④《感性》を創ることが目的です。

1. 現実から学び、現実から遊離した知識や技術を与えないようにしてください。現実から遊離すると知識は知性になりません。
2. 感性は、現実にある全体性の中から育ちます。全体性は部分との関係の中で存在します。

⑤《人間性》を創ることが目的です。

- 1～4 で創られた基本能力が、最高レベルに人間性を高めます。

⑥《人生》を創ることが目的です。

1. 深く人生にかかわれる能力を創る中で、生きていく方向性と仕事を見つけることになります。
2. 多くの人を幸せにすることが、自分の人生の幸せだと考えるようになります。→小3女子の手紙

⑦1～6により、ピグマリオンは、人生の試験に合格する能力を育てます。その他の受験は、単なる手段です。人生試験に合格できる能力を育てることができるかは、はなはな疑問です。

1. 灘中や東大に合格する子供は、多数います。灘中1番合格者はこの3年連続幼児期ピグマリオン学育を学んだ者です。東大理III(医学部トップ卒業生)もいますし、東大寺、洛南甲陽、神戸女学院、開成、築駒など最難関校への合格は普通のこと。
2. 東京・名古屋・大阪・京都などの、名門小学校の校内1位にも、ピグマリオンの生徒は多数名を連ねています。
3. 浜学園、四谷大塚、日能研などの全国公開模擬テストなど、全国規模の模擬テストの各学年1～3位経験者は、枚挙にいとまありません。
4. 数学オリンピック金賞メダリストも多数いますし、小4で微分積分を学んでいる生徒たち、数学検定で高校レベルの検定を合格した者も。
5. しかし、そのようなことがピグマリオン学育の目的ではありません。小学校・中学校・高校・大学。入社試験に合格するために頑張るのはたった一つの試験、人生受験に合格するために必要だからでしょう。だから、人生受験に合格する能力を育てない、あらゆる教育は、一人一人の人間を幸せにすることがない、意味のない教育です。小学校～大学、大学院、入社試験に軽々と合格するのは当然のこと、人生受験に合格するためには、本物の人間能力、創造力が必要です。創造力が、人生を豊かに幸せに歓喜に包みます。

⑧ピグマリオン教育は7つの能力を育てます。

1. 指先の調整能力

脳と直結した身体、手、皮膚、指先の能力を育てます。

破る / ちぎる / ぬりえ / ちぎりえ / 切り絵 / 折り紙 / 切り絵工作

2. 図形形態把握能力

天地パズル / マグプレート / ペリカンパズル / 色板トントン / ひも模様 / カモシカパズルなど

3. 空間位置把握能力

積木構成 / 5方向知覚 / 積木推理 / 立方体展開 (面・頂点・辺・和)

4. 判断・思考力

にげみち / 長方形分割 / 絵の合成・分解 / 同類図形 / 重なり図形など

5. 数論理能力

別紙参照。」知性の段階的育成のモデルを示す。

6. 言語能力

関係性の中で育てる本物の言語能力。文字や言葉の意味のない国語、受験のための国語教育を廃し、高い人間性を育てる国語教育です。

7. 社会性 (親子関係・人間関係育成能力)

親子関係創りが、ピグマリオン教育の最大目的です。

言語能力の育成について【コミュニケーション能力の育成が、ことばの育成の前提です】

0 ヶ月児～30 ヶ月児 (2 歳半児) の特色は、人を介して学ぶ (コミュニケーションの中から学ぶ) ということです。本を読んだり・知識を教えられたりすることからではなく、人の行為の中から、すべてのことを学ぶのです。

このことは非常に大切なことです。

赤ちゃんの行動をつぶさに見れば、睡眠中であろうが、授乳中であろうが、いつでも、人とのコミュニケーションを求めていることがわかります。コミュニケーションの手段を高める中で、ことばが、コミュニケーションの一つの方法として、この時期に発生して来るのです。

言葉は、次第に、思考手段として使われ、さらには、文字で伝達する・表現することができるようになるのですが、この時期は、それら以前の時期です。

最近の 0 歳児研究の結果、『赤ちゃんは、語彙を徐々に獲得しながら、単語の配列に規則性を見出して言語を習得していくのではないらしい』(「0 歳児がことばを獲得するとき」正高信男著・中公新書、129 ページ)ということがわかりました。

考え違いをしないでもらいたいです。

このことは、言葉本来の目的が何かということを示していますし、生きようとする強い意志と暖かい人間関係が、言葉を育むものだというを示してもいます。

この時期の子どもの発達に不必要な単語や、知識を詰め込むことは、こどもの頭を混乱させてしまい、能力の発達を疎外します。

これから、何をすればよいのか、何をすべきでないのかを学んで、子どもとの、一生に一度の、輝くばかり明るく楽しい時間を過ごすてください。

能力は全体的なものなので言語だけを発達させることなどできません。

他の能力と連動させ指導をおこなってください。

あくまで、人間力を育成するのが目的です。

この本の標準発達段階を見て、わが子の発達の色度と違ふからとって、悲しんだり、わが子を怒ったりしないでください。

発達段階の差は、50% 前後もあるといわれています。

私の本のすべてについていえるのですが、本を読まれる方は、子どもを教えようとししないでください。

教えるとは、相手の能力を無視して、自分の思う通りにさせることになります。

相互信頼のないところでは、心を安らかにすることができないし、楽しくないので、相手から学べないのです。

また、教えて、教師になると、親子という人間関係が壊れてしまう可能性も高まります。

学校や塾の講師は、生徒との関係は、人間関係というより、物の位置である、上下関係になりやすく、物の位置関係からは、人間性は育つことはありません。

成績をあげるとか、学校に入学するための勉強からは、人間関係が生じることはありません。だから、本物の能力も育ちません。




親は、教師になってはいけません。

親であること、子どもに感謝する親子関係を創ることを心がけましょう。

言語能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
0 ヵ月 児頃	音には敏感		
	母親の声だけは聞き分けられる		
	叫ぶ・泣く		
	吸啜反射(乳首を含ませると吸う)		
	サイクル交換ができる(2週間頃)		
1 ヵ月 児頃	泣き声「ウククン」と声を出す		
	「クークー」と自ら発生したり、話しかけられると発声する(『クーイング』がはじまる)		
	母親の声に反応する		
	あやされると、手足を動かして答える		
	サイクル交換が倍増(2ヵ月頃)。クー・アーの発声		
3 ヵ月 児頃	「ウグウグ」など、のどの構造が変わり、母音様の声を出す(喃語の始まり)←劇的な声変わりの時期		
	声を出して笑う		
	あやされて微笑み声を出す(微笑み反応三ヵ月微笑)		
	イナイイナイバーに反応する		
	人間の声に注意する		
5 ヵ月 児頃	喃語(クーイング)が活発になる		
	おうむ返し反応(同期行動)をする		
	「アー」「ウー」の声が出る		
	あやされて声を出すだけでなく、自分の方からも声をかける(交信的発生)		
	世話をしてくれる人の顔や手を注視し触れる		
	道具的微笑(特定の人への微笑)→人見知り始まる		
	イナイイナイバー、オツムテンテンなどを喜び、キャッキャットはしゃぐ		
	音節の繰り返しが始まる		

言語能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
7 カ 月 児 頃	発声が活発になる		
	名前を呼ばれると自分だとわかる		
	いくつかの子音も聞かれる		
	「クイーアーオーウー」としゃべるようなメロディーの音を出す		
	自分から呼びかけるような音を出す		
	音の調子や抑揚に関心を持つ		
	強弱・高低をつけて、喃語をしゃべる		
	好き嫌いがはっきりしてくる		
	音と動作の模倣ができてはじめる		
	指差して物を示す		
	物を媒介とした、『やりもらい関係』が出てくる		
9 カ 月 児 頃	「マンマンマン、ナンナンナン、ダダダダ」など、切れ目のない喃語を発する		
	音声を模倣する(抑揚・発声)、動作模倣が始まる		
	歌を歌うと、身体で調子をとる		
	「バイバイ、チョチチョチ、イヤイヤ」などを、相手の動作や音に合わせてする		
	3つのメロディーパターンで自己の意思を表現する		
	①自分の意思を表す場合の、発声の語尾は、下降を示す 		
	②話し相手に対しての要求を発声する場合の語尾は、上昇する 		
	③第三者に対する叙述の場合の発声は、平坦である 		
	禁止を理解できる		
	腕を上げると、足を曲げたり、伸ばしたりする		
	一人座りから、四つ這いで、ぎこちなく這う		

言語能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
10 カ 月 児 頃	大人の指さしにつられて、手さしや指さしが見られる		
	大人と物を介して、関わる(三項関係)		
	手指遊びを部分的に模倣する		
	自分の名前が呼ばれると、振り向く		
	物が隠されても、物がそこにあることがわかる		
	見立て模倣をする		
	大人が指したほうを見る		
11 カ 月 児 頃	一語文を獲得する		
	「メンメ」など、叱られたことがわかり始める		
	見つけたもの、欲しいものが離れていても、指さして「アッアッ」と訴える		
	「マンマ」、「ブーブー」など、音声と物とが対応してくる		
	ちょうだいに反応して、顔を見て渡す		
	歌に合わせて手をたたく		
	家族の名前を言うとわかる		
12 カ 月 児 頃	隣の子供の真似をする		
	有意味語が出てくる		
	発声しやすく、しかも、自分の行為と気持ちに結びついて発せられた大人の言葉を、模倣して獲得していく		
	言葉の理解が進む		

言語能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
13 カ 月 児 頃 か ら	称賛・励ましなどが、強化因子となる		
	指さしして「アーアー」などという		
	友達の顔と名前が一致する		
	大人の簡単な指示に従う		
	「チョーダイ、イヤ」(要求拒否表現、14~18カ月)		
	大人と共に、手遊び・指遊び・リズム遊びをする		
17 カ 月 児 頃	動物はすべて「ワンワン」、食べ物すべて「マンマ」の時期		
	手に持ったものを手の延長としてでなく道具として使う		
	2~3の語が話せるようになる		
	「~持ってきて」「これを~にハイしてきて」「これをパイしてきて」などの簡単な言語的指示に従えるようになる(命令・要求の理解)		
	日常生活の簡単なものなら、「~どれ」と聞かれて、指さしして答える		
	言葉を話し始めるようになるが、言語的行為は、たいてい身振りや動作とくっついている		
19 カ 月 児 頃 か ら 21 カ 月 児 頃	知っているものを指さし、言葉で言って知らせてくれる		
	自分と他人の区別ができる		
	側にいる子と同じような遊びをする		
	語彙の急速な増加(普通、10~20語。少ない者は、3~4語。多い者は、100語以上の単語)		
	1語文が増える		
	2語から成る句を言い始める(助詞がない)		
	動詞に「~テをつけて、要求語を話すようになる(トッテ、カッテ、アケテなど)」		
	咳をすると人の気を引くことを知っている		

言語能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
23 カ 月 児 頃	体操を見ながら部分的に模倣する		
	身の回りの話を聞くことを好む		
	「ジュース」、「ゴハン」、「デンシャ」、など、欲しいものを要求する		
	周りの人に呼びかける(アーチャン、トーチャン、センセ、〇〇チャンなど)		
	「イコー」、「コッチ」、「チョウダイ」、などの言葉を使う		
	知っているものを、指さして、言葉で言う		
	「コレナニ」?とやたら質問するようになる		
	「お父さんどこ?」といった、今ここにいない人に関する質問に「アッチ」とか「コッチ」とか答えるようになる		
	知っているものを指さして言葉で言う		
	食物の名前をたくさん覚える		
	言葉かけによって行動できる		
	代名詞の使用が多くなる		
	男女の区別がわかる		
	大人や友達の名前を覚える		
3~4語の文章を使用する(多語文、従属文も増える)			
26 カ 月 児 頃 か ら 28 カ 月 児 頃	「ドウシテ?」を盛んに連発する		
	自分の物と他人の物の区別がつく		
	大便と小便の区別が言葉で言える		
	手伝いを積極的にする		
	自分の要求が言語化できないでぶつかり合う(噛む・たたくなど、自我のめばえ)		

言語能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
30 カ 月 児 頃	自分のことを自分の名前と言う傾向が強い		
	順番を待つことができる		
	大人を中心に友達とも関わりを持つ		
	動作しながらお話ができる		
	時々、喃語がでるときがある		
	「コレナーニ?」とよく聞いて、確認を求める		
	2語～多語文が使える。(マッテネ、ジュンバンネ、〇〇ミタイネなどもつかう)		
	大人の言うことがほとんどわかる		
	「コレガイイ」と選択する		
	自分の見たこと、身の回りの出来事を話すことができる		
	理解言語から、表現言語へ踏み込んでいく		
	言葉が増え、おしゃべりが盛んになる		
	言葉によるコミュニケーションができるようになる		
35 カ 月 児 頃	要求を言葉で言うようになる		
	「ダッテ～ダモン、～シテタノ」といった、「自分のつもり」を主張してくる		
	「ボクノ!」「～チャンノ!」などの自己主張の言葉が頻発する		
	現在、目の前にある、物と物との関係の把握が進むと同時に、現在の事柄と過去の事柄を関連付け、簡単な因果関係を理解することもできるようになる(非論理的)		
	言葉を使って、行動をコントロールし始める		
	言葉は思考の手段として、認識の発達をリードし始める		
	語彙の増加が著しい		

数能力の育成について【数能力の育成は、創造力そのものの育成です】

数能力は、人間の能力の中でも、最終的に誕生した能力です。
現実を理解する手段の一つとして、人間だけが創り出した概念です。
概念ですから、それは愛や正義と同じようなものです。
それは、見れて、これと説明することができないものです。
各人が自分の頭(心)の中に感じ、創造するものです。
数能力は、知性と感性を使って創造するしかありません。
愛や優しさや感謝と同じように。

以上のような理由で、20ヵ月までの幼児においての指導のなかには、余り入ってきません。それよりも、数能力を育成する上において前提となる、その他の能力の方が先に育成されなければなりません。

その他の能力とは、運動能力、指先能力、基本知力、言語能力です。

具体的に言いますと、

運動能力としては、2足歩行の完成を意味しますし、指先能力としては、手首が回る、親指と人差し指で摘めることですし、図形能力としては、マグ・プレート、天地パズル、ペリカンパズルができることで、辺と角度をとらえる幾何学能力の発達を意味しますし、基本知力としては、点描写で斜めの線が引けることです。

ところで、発達の遅い子は、必ずといっていいほど、つまり、数能力の発達に遅れが見えます。

3歳時の時点で、5までの数概念が育てられない、つまり、指を折って、 $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot \dots$ と数を数える子どもには、数能力の育成の前提能力が育っていない可能性があると言えます。

数能力のとらえ方、育て方を間違っているのです。

数能力は暗記力ではありません。

繰り返し訓練して覚える技術でもないのです。

数能力は、ひたすら数能力なのです。数量論理能力です。

それは、外界を数量的に把握し理解し問題解決する能力です。

例えば、目の前に、1つのコップがあったとしましょう。このコップは、個数としては1ですが、1として存在しているだけではありません。それは、長さとしても、重さとしても、かさとしても、時間としても、面積としても、体積としても存在しているのです。

それらすべてとしてのコップの存在が感じられなければ、数能力を使ってコップを見ているとはいえないのです。

ピグマリオンでは、数能力の育成を通して、思考力・創造力・学ぶ力・問題解決能力を養っています。だから、自分でどんどんと能力を育てていけるのです。知識と知識を覚えるだけの今までの教育とは全く違うのです。

それは現在、とてつもない大きな成果をあげ続けています。1~2年通った年少児で、小3程度の数能力を身に付けるものも現れるというくらいです。小3で微分積分を学んだり、数学検定高2レベルも、各学年に全国公開模擬テスト1位~3位の生徒も多数います。

それだけでなく、難関中学入試においても、他と比較することができない、結果を出しています。

ピグマリオンで学んだ子ども達が、日本一の難関校、灘中入試に、この3年連続で、1位合格を果たしているのです。

数能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
12 カ月 児 頃 まで	◎数感覚発生の前提活動		
	飼育されている小動物を見たり触れたりする。草・木・花などを見る(7カ月頃)		
	土・砂・水など変化する素材に関心を持つ(7カ月頃)		
	大きさ・重さ・形の違う玩具で遊ぶ(8カ月頃)		
	容器の中から、次々と物を取り出そうとする(8カ月頃)		
	物を十分に分析的に扱い、同じ動作をくり返したりする(9カ月頃)		
	物を取り出したり、入れたりして、容器と内容物の二者の関係が理解できる(11カ月頃)		
12 カ 月 児 頃 か ら 15 カ 月 児 頃 ま で	自分の好きなところへ、歩いたり、はったりして行こうとする(時間感覚発生などの前提活動)		
	大人の簡単な指示に従う、友達の顔と名前が一致するなど認識力が高まっている		
	「1つ」と「2つ」の区別ができる		
15 カ 月 児 頃 か ら 18 カ 月 児 頃 ま で	言葉を使い出す。物の名前を知りたがるなど知能程度がどんどん発達している		
	ヨチヨチ歩きができたたり、指先能力が発達したりで、活動能力が増し、意欲満々である		
	★以上のことが、前提となり、次のようなことがわかるようになる		
	丸の型をはめたり、いれたりできる		
18 カ 月 児 頃 か ら 21 カ 月 児 頃 ま で	身の回りの話を聞くことを好む(好奇心が旺盛である)		
	体操を見ながら部分的に、動作模倣をする→学習能力の発達		
	広げたハンカチに物を包んだり、シャベルを握って砂を掬ったりする(活動能力の枠が広がっている)		
	★以上のようなことが、前提となり、次のようなことがわかるようになる		
	「2つ」と「3つ」の区別ができる		

数能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
21 カ月 児頃 から 24 カ月 児頃 まで	新聞紙をちぎったり、破ったり、まるめたりする		
	粘土を丸めたり、叩いたり、引きちぎったり、延ばしたりして、形を変形させ、色々なものをつくる		
	親指と人差し指の二本を使い、垂直の線を引く		
	砂と水を混ぜ、容器に入れて、お団子やプリンを作る		
	砂と水を混ぜて、ジュースやコーヒーを作り、飲む真似をする		
	積み木と積み木を打ち合わせたり、集めたりする		
	積み木を、3～4個積んで、塔を作る		
	★以上のようなことが、前提となり、次のようなことがわかるようになる		
	大きい・小さいがわかる		
	多い・少ないがわかる		
	上・下の関係がわかる		
24 カ月 児頃 から 36 カ月 児頃 まで	長短の関心に興味をもつ		
	簡単な形がわかる(まる・三角・四角など)		
	色の名前がわかる(白・黒・赤・黄・青・緑・紫など)		
	色・形・数・量を取り入れた遊びができるようになる		
	玩具を数えたり、分類したり、並べたりする		
	色板やパズルで構成遊びをする		
	数えることに興味を持つ		
	「1つ」を渡すことができる		
	「1つ」と「多」の区別ができる		

基本知力の育成について 【心(頭)でものを〈みる〉力と学ぶ力が、基本知力です】

今までの教育の方法では、能力を育成できません。そもそも、能力を育てるための哲学・方法・教材・教具・カリキュラムがありません。では、どうすれば、思考力や創造力が育成されるのでしょうか。

ここでいう能力とは、思考力のことで、思考力とは、答えがない問題を見つける、創造する能力のことなのです。

ピグマリオンでは、空間位置・図形形態などに関わる能力(幾何学能力)を育成していくことによって、物を構成把握的(关系的)に理解する能力や思考力・創造力する能力を育成しております。

これによって、初めて出会った問題も解決できる能力(思考力)や学ぶ力も創られていきます。

これらの基本知力(幾何学能力・構成把握能力・関係把握能力・思考力・問題解決能力・学ぶ力など)の発達とともに、言語能力や数能力を、同時に育てております。だから、だんだんと教えることがなくなっていくます。2~3年通ってる年長児や小1の子どもが、小5~6のことを軽々と楽しく学んでいるのも基本知力が育成されているからです。

よく考え違いされますが、基本知力の育成の後に、言語能力や数能力を育てるのではないのです。それらを同時に育成するのです。

例えば、 $5+7$ というたし算の問題を解答することをおして、思考力・創造力を育成していくのです。それは、数能力をつけながら、基本知力を養い、言語能力を育成しているといった教育方法なのです。算数の計算教室や国語の漢字教室や学校教育の先取り乃至は補修の教室に通っても効果が出ないのは、基本知力の育成方法を知らないからです。何度教えても忘れるとか、教室に通っていても楽しくないというのは、その子どもの基本知力を越えた事をしてるからなのです。

平成元年の教育改革で、文部省は、教育の目的を、知識の習得から、自立心・創造力・国際性を持った子どもの育成、生活の中で知恵をだせる人間の育成にかえました。コンピューターも、小・中学校に数百万台設置するということです。これからは、知識を覚えるのでなくて、知識を使って問題を処理する能力の育成が学校教育の目的となっているのです。これは、喜ばしいことです。創造的な仕事をしている大人たちは、今までずっとそうしてきたのですから。

ところがです。30 数年たっても、文部科学省の目標は、全くもって達成していません。

国の教育予算は、12% から、4% に削減されていますし、先進国の中で大人の知的能力は最低レベルクラスといわれています。

30 年間の経済成長率も、たかだか 30%。世界中が 2~10 数倍に
なっているにも拘らずです。

平均年収も先進国の $\frac{1}{2} \sim \frac{1}{3}$

企業の世界ランキングも、3~40 年前は、何十社と 100 位以内に入っていたのに、今は、1~2 社程度。子どもの未来を創るのは、親の務めです。誰かに任せることは、もうできません。

親が、子供とともに、高い問題解決能力である思考力を育てるしかないのです。

どうすればよいのかを、一緒になって考えていきましょう。

考えるとは、「答えがないものに答えを見つける、答えを創ってみる」ということなのです。

基本知力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
0 カ 月 児 頃	(視覚) 光を目に感じる力が、3時間についてくる		
	抱き上げて対面すれば、新生児でも、人の顔を注視する		
	生後1日目でも、追視らしきものがある		
	(触覚) 反射運動として、皮膚にもものが触れると、十分感じる		
	(聴覚) 生後数時間たつと、鳴子・ガラガラ等のような強い音で、しかも持続的な音に反応する(モロー反応)		
	(臭覚) アンモニアや酢酸には、決定的拒否反応を示す		
	(味覚) 味に反応する(母乳やミルクを飲む)		
	(皮膚感覚) 温度感覚がはっきりしている(ミルクの温度、入浴の際の湯の温度に敏感)		
	(痛覚) 一週間ぐらいで痛感を感じられる		
1 カ 月 児 頃	共鳴動作をする		
	音のする方向を探し求めて、頭を動かす(90度いないの角度で目と頭の協応運動)		
	長い間、眼球を固定し、光を捕らえて凝視する		
	『～すれば～になる』という随伴関係を探求しようという意欲がすでにある		
2 カ 月 児 頃	視力がよくなり、近くの光や、鮮明なものを見つめる		
	目の前で物を見せるとわずかに追視する		
	手への注視行動がでてくる(心の発生)		
	世話をしてくれる人の目を注視する		
	頭上のモビールを見て、興奮し活発な笑いを生じさせる		
	音のする方向へ顔が向けられる		
	見えないところで鳴っているガラガラの方向がわかる		
	人の声と物の音が区別できる		
	目の前で左右に動くものを追視する		
目の前で音の出る玩具を追視・追聴する			

基本知力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
3 カ 月 児 頃	目の前で上下に動く物を追視する		
	色の鮮やかな物を注視する		
	抱いて歩くとまわりをキョロキョロと見回す		
	大人の目を注視する		
	共鳴動作がピークをむかえる		
	『慣れ現象』が現れ出す		
	指しゃぶりや両手を触れ合わせて指で遊び、自己刺激を楽しむ		
	自然の中で、葉ずれや小鳥の囀りに聞き入る		
4 カ 月 児 頃	世話をしてくれる人がはっきりわかる		
	世話をしてくれる人の顔や手に注視して触れる		
	目の前で、左右・上下・円運動を見つめる		
	8mmの小さい球にも気づく		
	遠いところや色がはっきり見えてくる		
	大人の声を集中して聞けるようになる		
	目と手の協応ができはじめる		
	目の前にあるものを何度も見つめる		
	目に触れるものを、手を伸ばして触れようとする		
	見知らぬ人を見ると固くなる		
物を隠すともう関心を示さない(物の未永続性)			
5 カ 月 児 頃	見たものに両手を近寄せ、触れた側で握ったりする		
	大人の声を聞き分けられる		
	歌や音に耳を傾けじっと聞き入る		
	『慣れ現象』が顕著になる		

基本知力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
	明るい色、単純な光沢を持った色を好む		
	見た物と、触れたものが同一だとわかる		
	動くものを目で追う		
6 カ 月 児 頃	身の回りのものを、よく見る		
	好き嫌いがはっきりしてくる		
	乳母車に乗せて公園に行くと、子供の遊ぶ姿をみて、大変興奮する		
	ある物とある物とが、同じ物であるという、『物の同一性』が成立する		
	離乳食になれよく食べる		
	名前を呼ばれると自分だとわかる		
7 カ 月 児 頃	部屋の上の方に興味を持ち、座って、見上げたり、見上げて探したりする		
	親しい人とそうでない人の区別がはっきりする		
	人見知りし、見返りをくり返す		
	子供同士顔を見合わせて、じっと見たりする		
	草・木・花などを見る		
	飼育されている小動物を見たり、触れたりする		
	大人と一緒に、両手を使った指遊びを好む		
	大人の膝の上で、揺さぶりをしてもらうのを好む		
	あやされなくても、自分から他人の方へ声をかける		
	摘んだものを、口に持っていき、嘗めて、何であるかを探る		
オムツが濡れていると気持ちが悪く感じる			
8 カ 月 児 頃	大人の身体の動きのみぶりを、嬉しそうに見て、手拍子する		
	味覚が完成する		
	積木に興味を持つ		

基本知力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
9 カ 月 児 頃	身近な物を描いた絵を見る		
	目と指を好んで使う		
	興味のあるものに、指差しできるようになる		
	絵本や紙芝居を座ってみる		
	大人の歌や身体の身振りを、模倣するようになる		
	他の子供たちに近づき、つついたり、ひっぱったりして、他の子供に興味を示す		
	人の注意を引こうとする		
10 カ 月 児 頃	大人の指さした方を見る		
	回りの人の身振り、顔の表情や声を模倣するようになる		
	隠されたものを探索して探す		
	見立て模倣をする(積木を自動車・座布団を人形など)		
	自分の名前が呼ばれると、振り向いたり反応したりする		
	叱ると「プイ」と、反応する		
	大人の言葉かけにより、動作模倣も活発になる		
11 カ 月 児 頃	大人と一体になって、欲しいものへ手さしする力が育ってくる		
	隣の子供の真似をする		
	玩具の扱いでも、側にいる人がやって見せると、いろいろ変わったこともする		
	物を取り出したり、入れたりして、容器と内容物二者の関係が理解できる		
	歌に合わせて手をたたく		
	目標に向かって、方向をいろいろ変化させながら、探索活動する		
	家族の名前を言うわかる		

基本知力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
12 カ月 児頃 ↓	見つけた物や欲しいものに対して、大人の顔を見ながら、自ら手指しをする		
	目標に向かって高這いし、自分で姿勢をいろいろと変えて物に向かう		
	簡単な道具や食器具の使い方に関心を持ち外界に働きかける		
	友達の顔と名前が一致する		
	近くにいる友達と関わりを持つ		
15 カ月 児頃	身の回りにあるものを手で触れたり、転がしたり、振り回したりする		
	大人とともに、手遊び、指遊び、リズム遊びをする		
	大人の簡単な指示に従う		
	個々の排泄の時間を促してもらったり、活動の前後に促してもらう		
15 カ月 ↓ 18 カ月	パンツが濡れているのがわかる		
	身の回りの道具、玩具や持ち物の区別ができる		
	絵本を読んでもらう		
18 カ月 ↓ 18 カ月	散歩時に触れ合う自然や事実を見る		
	物の名前を知りたがる		
18 カ月 児頃 ↓ 21 カ月 児頃	側にいる子供と同じような遊びをする		
	自分と相手の区別ができる		
	知っている物を指さして、言葉で言って知らせてくれる		
	身の回りの話を聞くことを好む		
21 カ月 児頃	いろいろな葉っぱや木の実の違いを知る		
	咳をすると、人の気を引くことを知っている		
	遊びを通して子供たち同士関係を持つ		
	便意を予告し、自分からオマルに座っている		
	パンツの着脱に興味を持つ		

基本知力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
21 カ 月 児 頃	食物の名前を、たくさん覚える		
	大人との共感が深まり、身近な人や物の真似をして、簡単なごっこ遊び(見立て遊び・つもり遊び)をする		
	変化する素材で、簡単な道具を使って繰り返し遊ぶ		
	自発的に、自然や出会う事実に触れようとする		
	新聞紙をちぎったり、丸めたり、穴を開けて眺めたりする		
	大人の言うことがわかり、指示されたことをしようとする		
	粘土を、指で引きちぎる		
	粘土を丸めたり、叩いたり、伸ばしたりして、蛇やお団子をつくり、形を変形させていく		
	↓		
	砂に水をまぜ、容器に入れ、お団子やプリンをつくる		
24 カ 月 児 頃	泥と砂をまぜ、ジュースやコーヒーを作り、飲む真似をする		
	指に糊をつけ、紙を貼る		
	シールを指先につけて、貼ったりはがしたりする		
	腕全体を動かし、弓なり型に描く		
	親指と人差し指の二本を使い、垂直の線を引く		
	クレヨンは、1色だけで満足する		
	積み木を、3~4つ積んで、塔を作る		
	積み木と積み木を打ち合わせたり、集めたりする		

基本知力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
24 カ月 児 頃 ↓	大人や友達の名前を覚える		
	自分の物と人の物の区別がつく		
	大便と小便の区別が言葉で言える		
	手伝いを積極的にする		
	自分のことを名前より代名詞で言う		
	順番を待つことができる		
	一人でトイレにいける		
	大人の歌や動作の真似をする		
	大人の言葉がけにより、「みたて」「つもり」行動をし、身近な人や物の真似をする		
	大人を中心に友達とも関わりを持つ		
36 カ月 児 頃	自然の変化に気づく		
	水栽培の花の世話をする		
	砂を丸めて、容器に入れる		
	手遊び、歌やリズム運動などの同じ遊びを隣でする		
	小動物と一緒に遊ぶ		
	粘土を手でいじる、叩く、押す、ちぎる		
	粘土を他の材料と一緒に使う		
	さまざまな大きさの積み木を、でたらめに組んだり、見立てて積んだり、行列を作る <small>(並べて、汽車にみたてる・汽車の上に積み木を立てて、煙突をつける同じ大きさのものを並行に並べたり、上に置いて橋やトンネルを作る)</small>		
37 カ 月 ↓	身近な人や物の名前を間違えないで言える		
	順番を待つことの意味がわかり始める		
48 カ 月	自分も、他人の中の一人だとわかる		
	大人の言葉がけで、早い・遅いが調整できる		
	共通のイメージでごっこ遊びができる		

運動能力について

他の動物と違って、人間は、移動できない状態の生活が長く、2年早く生まれてきた動物と言われます。

この間は、親の面倒を見てもらうしかないのですが、能力が不完全な状態で生まれてくるということに意味があるのです。

不完全な状態とは、可変的である状態でもあるので、与えられた環境に最大適応することが可能となるからです。

しかし、良い環境が与えられないと、良くない環境に最大適応することになってしまう危険もあるということです。

運動能力の発達を軽視しがちですが、人間と他の動物の違いを、2足歩行 / 道具の使用 / 言葉の使用と3つあげられることが多いことに注意してください。これらは、運動能力と指先能力の発達に左右される能力です。

乳児の各段階の呼称が、歩ける過程に応じた段階になっていることにも意味があるのです。

- ① 5～8 ヶ月の幼児を、つかまり立ち期の幼児と呼びます。
- ② 9～12 ヶ月の幼児を、歩き始め期の幼児と呼びます。
- ③ 13～18 ヶ月の幼児を、よちよち歩き期の幼児と呼びます。
- ④ 19～24 ヶ月の幼児を、歩行完成期の幼児と呼びます。

※乳幼児期の発達段階の差は、50～60%もあるので、発達の程度を良く見ながら指導しなければなりません。何ヶ月児かということと、発達の程度の両方をよく観察し、どのレベルなのかを考えましょう。

運動能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
0 カ 月 児 頃	◎ほとんどの運動が反射運動です。※不規則な運動が多く、反射的に動く(原始反射)		
	目の開閉、叫ぶ、泣く、シャックリする、クシャミする		
	乳首を含ませると吸う(吸啜反射)		
	飲み込む(嚥下反射)		
	喉につかえると、吐く(咽頭反射)		
	口元を刺激すると、口を開ける(十字反射)		
	迷路反射(内耳前庭器官を受容器として生じる反射)		
	仰向けに寝ています		
1 カ 月 児 頃	◎全運動の基礎的動作をする。※両腕をグルグル回し、左右相対称的運動をする		
	瞬間的に頭を真っ直ぐにし、左右相対称的運動をする		
	頭や顎を持ち上げる		
	頭を傾け、片腕を伸ばし、もう一方の腕を曲げている(緊張性顎部反射/迷路反射の1つ)		
2	腹ばいの姿勢で、顎を上げ、胸を持ち上げる		
3 カ 月 児 頃	◎頭部から脚部に、中○から抹消の方向に運動発達する		
	◎非対称から、対称位に運動発達する		
	◎肩の筋肉が発達する		
	うつ伏せにすると肘と肘の先の腕の部分で、身体を支え、少しの間、頭を下げる		
	手と手、足と足を軽く合わせる(左右対称)		
	顎を持ち上げ、ひじを曲げ、背中と下肢をのばす		
	首がすわる		

運動能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
4 カ 月 児 頃	◎手や腕の運動は、頭や目の運動に支配を受ける		
	首がしっかり据わり、頭を自由に動かせる		
	支えて立たせると、足を交互に伸ばし、体重を支えようとして、踏んばったり、曲げたり、つっぱったり、座ったりする(足踏み運動)		
	仰向けから横むけへと一人で寝返り、そり返りができる		
5 カ 月 児 頃	腹ばいの姿勢ができるようになり、掌を開き、両腕を伸ばし、胸を反らせて体を支える		
	支えおすわりをし、椅子に暫くすわってられる		
	仰向けから、頭、肩、腰がねじれるように回転する		
	四肢を動かし足を組み合わせた李、足を手で掴んだりする		
6 カ 月 児 頃	◎全身パターンから、分離パターンへ変わる		
	背筋を伸ばしながら、股関節を曲げる		
	抱き上げるとひざを強く蹴る		
	腹ばいの姿勢で、ハイハイするように手足を動かす		
	両手を広げ身体を支え、頭を真っ直ぐに保ち、横を振り向く		
	手の届く処の物を取ろうと方向転換する(交互性運動)		
	支えをしておけば、座った姿勢でられる		
7 カ 月 児 頃	◎寝返りを獲得し、移動運動の能力を身に付ける		
	仰向けで手足口を触れ合わせ、足を口に入れたりする		
	どちらの方向にも寝返り、腕を軸に方向転換する		
	お座りが安定し、胴体を真っ直ぐにして座ってられる		
	腹ばいで、上体やお尻を持ち上げて這おうとしたり、腕でつっぱって、後ろに下がる(這い這い)		
	腕を上げると、足を曲げたり、伸ばしたりする		
	一人座りから、四つ這いで、ぎこちなく這う		

運動能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
8 カ 月 児 頃	仰向けから、うつ伏せに、姿勢が変えられる		
	支えると立ち姿勢ができ、跳ねる		
	じっと座ってないで、たとうとしたり、身体をねじって後ろ向こうに姿勢を変える		
9 カ 月 児 頃	◎手足の交互運動ができる		
	一人で寝転んだり、起き上がったたりできる		
	支えると立ち、爪先で身体を支え、直立の姿勢がとれる		
	お座りから目的に向かって這い這いする		
	掴まり立ちができ左右に揺れても倒れないで元に戻る		
	前屈みの姿勢から直ぐに真っ直ぐに立てる		
	腹ばいから身体を持ち上げ、膝での四つ這いの這う姿勢がとれる		
	伝い歩きをしようとする		
	這い這いで目標まで行き、目標を手で掴むと座り、持ち替えたり、振ったりしてまた次の目標に向かう		
	歌と動作が結びついて、模倣する		
	歌を歌うと、身体で調子を取る		
10 カ 月 児 頃	重ねたふとんを乗り越える		
	座ったままで向きを変えたり、色々な角度に身体を傾けることができ、バランスがとれる		
	支えると立ち、そのまま一人で立つ		
	一人でつかまり立ちをする		
	膝を曲げないで、手と足で自由に這う（高這い）		
	身体の全体重を支えることができる		
	両腕を肩より高くあげ、バランスを取りながら歩く		
大人がさした方向を見る			
11	掴まり立ちし、伝い歩きができる		

運動能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
11 カ 月 児 頃	掴まり立ちして、伝い歩きができる		
	両手で支えられると、足を交互に運んで歩く		
	身体のバランスをうまくとり、数秒なら支えなしで立つ		
	座った姿勢から、うつ伏せになったり、うつ伏せから、座った姿勢に変えることができる		
	反対にある手と足を同時に動かし、手と膝で前進したり、後退したりして這う		
12 カ 月 児 頃	床からの直接立ち上がりを獲得し片手で支え歩きする		
	立つように伸び上がり、立って両手を上にあげる		
	椅子によじ登ったり、這い降りたりする		
	立つ、座る、這うなど、いろいろ姿勢をかえる		
	物を持って三肢で移動する		
	何かに掴まりながらちょこちょこ歩く		
15 カ 月 児 頃 か ら	膝を伸ばし、お尻を高くあげ、手と足で高ばいし、目標に向かって、方向転換しながら歩く		
	あっちこっち動き回るが、 <u>歩行が不完全で転びやすい</u>		
	自分の好きなところへ一人で行こうとする		
	音楽に合わせて、身体を動かし揺らす		
	腕は下に降ろし、ブラブラさせながらベタベタ歩く		
	<u>一人で完全に立つことができる</u>		
	揺れて傾く時、足を広く踏んばって踏み止どまる		
物に掴まらず立ったり、座ったりする			
◎ <u>よちよち歩きができるようになる</u>	前のめりに、真っ直ぐ、急足で歩く		
	歩幅は広く、横や後ろにも歩く		
	3段の階段を上り、後ろ向きに這って降りる		

運動能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
18 カ 月 児 頃 か ら 24 カ 月 児 頃 ま で	歩きながら、車のついた玩具を引っ張って行く		
	膝の高さの椅子に、背を向けてお尻から座る		
	目標にむかって歩いて行き、戻ってくる		
	鉄棒に2～3秒ぶら下がり、足を前後に振る		
	◎歩行が完成する※一つの切り替えの入った行動ができる(方向転換)		
	かけっこの真似をし、追いかけてっこをする		
	手をかせば片足で立つ		
	小さなもの(おまる程度)、小さい段差(敷居程度)の抵抗があっても、降りたり、またいだりできる		
	戸外に出て、よく歩き回り、周囲を見ながら、余裕を持って歩く		
	すべり台の階段から登り、上で方向転換をして、お腹を下にして足から滑り降りる		
	体操を見ながら、部分的に動作模倣する		
	物を目的地に向かって運ぶ		
	言葉かけによって行動できる		
	両足で飛ぼうとするが、片足ずつ着地し、足が揃わない		
	ボールを蹴る		
	両手で傘をもって歩く		
	正座やとんび座りをする		
	屈んで、地面のものを拾ったり、いじったりする		
	手押し車の運転ができる		

運動能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
25 カ 月 児 頃 か ら 36 カ 月 児 頃 ま で	◎運動に全ての生活が集中されている		
	◎身体のバランスを取った行動が上手になる		
	◎走る		
	リズムに合わせてとんだりはねたりできる		
	ブランコを自分で漕ごうとするが大人に漕いでもらわなければ乗れない		
	腕を振りながら走り、歩みを早めても、安定して走ることができる		
	腰を落として、両足飛びで、高いところから、飛び降りると手をつくが、くり返していると手をつかなくなる		
	片足で立尊し、その場で片足とびが少しできる		
	立った姿勢で、パンツ・ズボンをはく		
	パンツを下げて排泄ができる		
	足首をもって股覗きができる		
	階段は掴まりながら、足を交互に出して登り、一段ずつ両足を揃えながら降りる		
	追いかけては、直線的に走って逃げる		
	鉄棒にぶら下がる時間が長くなる		
	長い間椅子に座ることができる		
	動作しながらお話ができる		
	腕で抱え、腿で支えて椅子を運ぶ		
	走ったり、ギャロップができる		
	爪先で狭いステップを踏む		
	歩幅が長く、踝と爪で歩く		

指先能力の育成について【指先能力が順調に発達していないと、思考力と自立心が育たない】

粗大運動能力(足の運動能力/たったり、歩いたり)について心配する親も、指先の調整能力の発達については、無関心の人が多いようです。これは、大変な誤りといって良いでしょう。

乳幼児教育に携わる物の間では、指先のことを、外部の脳、第2の脳といたりしています。欧米では第6感覚といたりしています。乳幼児の教区に関わるものには、常識あたりまえのことを、世間一般では、どうも知られていないようです。

しかし、3~5歳児で幾何学能力や言語能力に不安のある子どものほとんどに、指先能力の未発達が発見されたり、親の世話を受けることが多い事実(自立してないこと)をみれば、指先能力の育成に無関心ではおれないのではないのでしょうか。

まして、皮膚は、発達の途中で、脳と分離した、脳の一部だとわかっているなら、身体や手足を無視した教育などあってはなりません。

なぜ、指先能力の発達が、言語や人間性や知能のレベルに影響を及ぼすかと言いますと、乳幼児は、考えてから行動を起こすのではなくて、行動を起こしてから、その結果、考えるからなのです。

ハイハイのできる子どもがハイハイのできない子どもより、伝い歩きのできる子どもができない子どもより、指先がよく動く子どもが動かない子供より優れた知能を持っているのは、行動半径やものとの関わり方がより広いからなのです。

体を移動させて、ものをにぎり・つまみ・まわし・ふり・投げるなどすることによって、短期の記憶の中にいる子どもに、感じ、考える機会を与えることになるからです。

感じ・考える経験の中で、能力を育成させていくのですから、指先を通して感じるのも、考えるのも、実は、頭なのですから、運動能力・指先能力の十分な発達、知能や・言語能力の育成の7本柱の一つとし、運動能力・指先能力の育成を位置づけています。

指先能力の発達に応じた遊びとしては

- ① 乳児グレード (誕生～20 ヶ月児)
ものをにぎり・つまみ・まわし・ふり・投げる・破る
- ② 導入グレード
千切る / ぬりえ / はりえ / 折り紙 / 絵かき歌
- ③ 基本グレード
千切る / ぬりえ / 折り紙 / はりえ / 折り紙 / 絵かき歌 / 切り絵 / 切り絵工作
- ④ 初級グレード
運筆練習 / ぬりえ / 折り紙 / 絵かき歌 / 切り絵 / 切り絵工作
- ⑤ 中級グレード
折り紙 / 絵かき歌 / 切り絵 / 切り絵工作
- ⑥ 上級グレード
折り紙 / 絵かき歌 / 切り絵 / 切り絵工作

などを用意しております。

指先能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
0 カ月 児頃	驚くとパーッと手を広げる(モロー反射)		
	親指を中に折り込んで軽く握っている		
	掌に指を触れると強く握るが、親指は把握に参加しない(把握反射)		
	手伸ばし(体全体でものを掴みに行く)		
1 カ月 児頃	触れたものを握っている		
	手を閉じたり開いたりする		
	手を口に持っていく		
	ガラガラを持たせると続けて持つ		
3 カ月 児頃	※屈曲優位から伸展優位に運動発達する(おはしゃぎ)		
	物に手が触れると開き少しの間握ったり口に持っていく		
	手を開いたり、指をしゃぶる		
	親指が外になった拳骨をつくる		
4 カ月 児頃	※目と手の協応ができはじめる		
	両手が同時に動き両手をふれあわせる		
5 カ月 児頃	※親指と他の指の不一致		
	見たものを手で掴み離さず口に持っていく		
	顔にかかるものは取る		
	両手を合わせ、指で遊ぶ		
	手をもみじ状に開く		
	掌で身体を支える		
6 カ月 児頃	自発的に手を差し伸べて物を掴む		
	おやつを自分の手に持って食べる		
	髪を引っ張って破る		
	小さな物を拾ったり、落としたりする		
	玩具を片手で持ち、もう片方に持ち替えたりする		
	音の出る玩具や器具を握ったりテーブルを叩いたりする		

指先能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
7 カ 月 児 頃	掌で物を握る		
	親指と他の指を向き合わせて物を掴む		
	スプーンを自分の口に持っていく		
	両手に玩具を持っていき、打ち合わせる		
	身体の前中央で物を持ち替えたり、片手で入れ物をひっくり返したりする		
	片手を伸ばして、小さなものを小指の方からわしづかみに掴み、離さない		
8 カ 月 児 頃	両手で物を掴む		
	欲しいものは、自分で手を伸ばして取る		
9 カ 月 児 頃	おやつを手に握ったり、お椀を両手で口に持っていく		
	引き出しを引っ張って開け、中のものを出す		
	親指と人差し指を向き合わせて、小さな物を掴み、容器に入れる。つつく、触る、ひったくる		
	両手に物を持ち、打ちつける		
	指さしをする		
	「バイバイ」「イヤイヤ」の動作をしたり、ニギニギ、オツムテンテンの模倣をする		
10 カ 月 児 頃	親指の内側と人差し指の内側で物をはさむ		
	物を投げる		
	障子を破って覗く		
	手遊びを部分的に模倣する		
11 カ 月 児 頃	ボーロを指先で掴んで、口に持っていく		
	哺乳瓶やコップを自分で持って飲む		
	玩具の自動車を手で走らせる		
	ボールを転がすと投げ返す		
	やかんなどの蓋を開けたり閉めたりする		

指先能力の標準発達

	チェックポイント	チェック月日	
12 カ 月 児 頃	◎抑制的運動が調整できる		
	ボールを押し出すように投げる		
	鉛筆でめちゃめちゃに描く		
	小さなものを親指と人差し指で掴み、容器にいれたり出したりする		
15 カ 月 児 頃	物を投げては拾いあげ、また、投げる		
	容器にもものを入れたり出したりする		
18 カ 月 児 頃	◎手に持ったものを手の延長としてではなく、道具として使う(言語の発達の前提)		
	◎両手を使って遊べる		
	物を掴んで投げる		
	親指と人差し指でピンセット状に掴んで容器に入れる		
	おはじきを摘んで、ビンに入れる		
	絵本のページを2~3枚、一緒にめくったり、閉じたりする		
24 カ 月 児 頃	ボールを投げる		
	シールをはがしたり、貼ったりする		
	ティッシュペーパーをひっぱりだす		
	ヤカンの蓋を取ったりはめたりする		
	広げたハンカチに物を包む		
	ドアを開けたり閉めたりする		
	シャベルを握って砂を掬う		
	スプーンを水平にしたまま口に入れる		
	玩具をひっばる		
	塵を払って掃き出すなど、大人の真似をする		
	結んで開いての模倣をする		